

実習内容  
ならびに  
スケジュール

感染制御部

曜日	時間	内容	担当	集合時間	集合場所
月					
火					
水	9:00	ICU患者カンファレンス	中嶋・植田	9:00	急性期医療センター3階 ICU前
	10:00	感染症、感染制御ガイダンス	中嶋・大谷	10:00	1号館5階感染制御部 カンファレンス室
	13:00	昼食			
	14:00	病棟回診。症例定時	中嶋・植田	14:00	1号館5階感染制御部 カンファレンス室
木					
金					

◎ 診療科名： 感染制御部

◎ 責任者氏名： 中嶋 一彦 准教授

◎ 教育担当教員氏名： 中嶋 一彦 准教授

### ◎ 実習概要

1. カンファランス 2. 棟回診 3. クルズス 4. 感染制御の実際の見学 5. グラム染色、抗酸性染色、培養検査データ、血液検査データ、画像所見の読み方これらを理解することにより、感染症の診断と治療方針、適正な抗菌薬の使用方法、院内感染対策の習得を目指す。

### ◎ 到達すべき学修成果（アウトカム）

- ・ 感染性疾患を有する患者の病態について理解している。
- ・ グラム染色により予測される病原菌を想定できる。
- ・ 想定される感染症に応じた検査の選択ができる。
- ・ 感染症に関連する基本的な検査データを正しく解釈できる。
- ・ 抗菌薬の TDM の原理と利用方法、目標値を理解している。
- ・ 病態、原因菌、抗菌薬の特性に応じた抗菌薬選択ができる。
- ・ 微生物に応じた伝播様式と、防止策を行うことができる。

### ◎ 卒業時アウトカムとの関連

Web シラバス「臨床実習のアウトカム評価」参照。

### ◎ 事前学修内容(時間)

- ・ 耐性菌、抗菌薬の種類、特性について講義テキスト、成書を読んてくること。

## ◎ 評価方法

(知識、技能、態度についてS、A、B、Cで評価。評価基準をルーブリックで明示)。  
例) 評価の項目は自由に増やす。

	S	A	B	C
知識	感染症の病態、検査、治療を十分に理解し、診断治療までの方策を自分で立案することができる。	感染症の病態、検査、治療について最低限の理解が得られている。	感染症の病態、検査、治療について理解が不十分であり、実臨床でも錯誤を来すおそれのある状態。	クルズスなどで得た病態、検査法、治療に関しても知識を理解できておらず、レポートなどでも理解への取り組みがみられない。
	レポート等で理解が行われていることが示されている。	診断治療までの方策を自分で立案することはできないが、教員のサポートによりこれらが行うことができる。	レポートにても感染症の病態、治療など誤りが著しい。	レポートを提出しない。
	他者への解説、指導ができる。	レポート等で理解する努力が行われている。		
技術	手指衛生・PPEの着用が正しく実施でき、適切なタイミングで行える。かつ、他者への指導も適切に行える。	手指衛生・PPEの着用が正しく実施でき、適切なタイミングで行える。	手指衛生・PPEの着用の方法、タイミングについて誤りがあり	手指衛生など感染対策を実施しない。

態度	自ら質問や疑問点を見だし、それらに対し積極的な問題解決を行う。	提示された疑問点や質問に対しては積極的な問題解決を行う。	受け身的な学習態度であり、質問や疑問点にも積極的な問題解決を行わない。	居眠りや、質問へ返答しないなど学習への取り組み態度が不良である。
----	---------------------------------	------------------------------	-------------------------------------	----------------------------------

## ◎ パフォーマンス評価

実習中以下の評価を行う

クルズス、回診の際、適宜質問を行い感染症に関する知識の確認、理解度をはかる  
症例レポートによる担当患者の病態、検査法、治療についての理解度をはかる

## ◎ 中間評価とフィードバック

なし

## ◎ 注意事項

初日は9時までに急性期センター3階 ICU 前に集合すること（時間厳守）